

国語 第3学年 書き表し方をくふうして、物語を書こう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：冒険で起こる出来事と登場人物の行動の理由を結び付け、読者が筋道を追える物語を書く。出来事を増やすことより、困ったことについて人物がどう考え、何をして進んだかを詳しくする。B(1)ウの学習として、冒険物語と筋道のメモ。困りごと、人物の考え、行動、結果を対応させ、下書きと読み手の疑問を残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、物語の出来事や人物の行動について理由が伝わるように、書き表し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：冒険物語と筋道のメモを残す。困りごと、人物の考え、行動、結果を対応させ、下書きと読み手の疑問を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：事件を次々に置き、解決が偶然だけになる。会話を増やしても行動の理由が伝わらない。これについて、出来事と人物の行動を並べたメモに、なぜそうしたかを書く欄を付ける。展開が作れない児童は身近な困りごとの解決を思い出し、冒険の出来事に置き換えて考える。教科書の絵は複製せず、使用する場合は原本で見る。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：冒険物語と筋道のメモは紙に記録できる。困りごと、人物の考え、行動、結果を対応させ、下書きと読み手の疑問を残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：B(1)ウは意見文のための指導事項ではないか。

返し：本単元の年間計画はB(1)ウを重点にしている。物語では、作者が考えた出来事や人物の判断が読み手に伝わるよう、理由となる状況を描く活動として扱う。物語を主張と根拠の形式に固定しない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この人物は、なぜその行動をしたのですか。読んだ人が分かるように、どんな様子や言葉を加えますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

